

6年生

教科	成果	課題	重点取り組み
国語	・物語文や説明文を読んで、筆者の考えを理解したり、自分なりの考えをもって書き表したりしようとしている。 ・漢字が定着している児童が多い。	◎作文や解答内の文章などで既習の漢字を使い、正しい文章の組み立てで書くことができない。 ・語彙力が少なく、定着率が低いため、文章に書き表す際に適切な言葉（語彙）が使えず、相手に思ったことが伝わらないことがある。	・作文や文章を書くときに、漢字を適宜使用するよう、例示などして指導する。 ・言葉の意味や使い方、働きなどを調べる時間を確保する（意味調べなど辞書を活用して）とともに、定着した言葉の活用を目指して、日頃からも定着した言葉を普段使いできるよう声をかけていく。
社会	・教科書や資料集の写真・映像などの資料から比較したり、関連付けたりするなど意欲的に読み取ろうとしている。 ・事実や事象に対して政治的、歴史的な意味を予想や想像するなど考えを深めようとしている。 ・学習したことを基に、資料や用語を活用しながらまとめることができるようになってきた。	◎日本の地理的環境、工業、産業の特徴、社会科の用語の知識・理解の定着率が低い。 ・自ら問いを見出したり、問題解決の際に用語を活用して表現したりする力に課題がある。 ・学習感想や自分の考え、まとめを書く際に、書き方に迷っていて自分の考えを書けない児童が多い。	・国内の各地域（都道府県）の特徴が捉えられるように、地図や映像、写真などの資料を取り入れて、特徴や特色などが結び付くよう指導する。 ・児童から問いや疑問を出させたり、比較や関連付けをしたりできるよう資料提示を工夫する。 ・学習感想やまとめを書かせる際、視点の提示や社会科の用語を使って文章を書くよう指導する。
算数	・課題に対する複数の解決法を考えたり友達の方法を活用して課題解決したりする児童が増えた。 ・数直線を書くことで、立式の根拠のヒントとして考えることができる児童が増えてきた。	◎小数の文章題や割合の理解に課題がある。 ・学習の定着度合いの個人差が大きい。 ・式の考え方は理解しているが、式上のかけ算・割り算の計算ミスで不正解している児童が多い。	・補習教室などを活用し、既習事項の定着を図る。 ・タブレットドリルやミライシードを活用し復習に取り組みせ、児童全体の知識・技能の向上を図る。
理科	・理科への興味・関心が強く、特に、実験・観察に対して意欲的な取組が見られた。 ・教科書やインターネットなどを活用して写真・映像などの資料を効果的に取り入れることで知識の定着が図られた。	◎理科の専門用語を使って考察する説明力が弱い。 ・学習の定着度が児童によって大きな差がある。	・実験・観察の時間の後、既習した理科の用語を使い、時系列から具体的に考察や結論を書かせるようにする。 ・生活体験や既習事項から予想や結果を考察させ、より具体的に説明できるようにする。

音楽	・器楽の合奏では、各声部の役割を理解し、自分の演奏を全体の中で調和させて演奏することができる。 ・困っている友達に寄り添い、互いに励まし合いながら協働して学習に取り組むことができる。	◎歌唱では、自信をもって自分の歌声を豊かに響かせることが苦手な児童が多い。	・曲の特徴について理解を深めたり、スタックカートやスラーなどの表現方法や声の音色、強弱、速度などの違いによる表現方法などを様々に試したりして、歌唱表現を工夫する楽しさを味わうことができるように工夫する。
図工	・新しい表し方に積極的に取り組み、自分なりに工夫して表すことができる児童が多い。 ・互いの表現を褒め合うだけでなく、よりよい表現にするために具体的に助言し合うことができる。	◎既習事項からさらに創意工夫を加えたり、表現の幅を広げたりすること。 ・発表することが苦手な児童がいる。	・既習の道具や材料の新しい使い方や技法を示したり、新しい道具や材料に触れさせたりし、様々な表現方法を経験させる。 ・タブレット端末を活用して、互いのアイデアを鑑賞する機会を設ける。
家庭	・積極的に取り組むことができ、調理実習や洗濯の実習は、意欲的に取り組む児童が多い。 ・グループ内で役割を明確にすることで、どの児童も状況に合わせて活動できた。	◎包丁の使い方や、調理の手順、裁縫の基礎的な知識・技能が身に付いていない児童がいる。 ・基礎的な知識・技能に個人差がある。	・5年生で学んだ裁縫の基礎やミシン掛けの再確認を行い、児童それぞれが自分の作品制作にスムーズに取り組めるように配慮する。 ・調理実習では、今何をするべきかを意識して取り組めるようにする。
体育	・グループやチームで仲良く運動をすることができる児童が多い。 ・ICTを活用した学習に慣れ、自分の動きや友だちの動きを客観的に見ることができる児童が多い。	◎運動技能に個人差があり、習得に時間を要する児童がいる。 ・苦手な運動に対して、粘り強く取り組む力が弱い。	・マイゴール（個人の目標）を設定し、自分の課題解決に取り組む活動を行う。 ・お互いに見合い、アドバイスをし合う時間を設定する。
外国語	・基礎的・基本的な学習内容を理解できている児童が多い。 ・スピーチ発表やアクティビティなど活動に意欲的に取り組む児童が多い。	◎主体的に取り組もうとする児童の差が大きい。（学習内容の理解が乏しい児童が消極的である。） ・アクティビティなどの活動で消極的な児童が若干数いる。	・フィードバックタイムなどを設けて、本時に習得した語彙や文章の復習をする時間をつくる。 ・英語カフェなど外国語指導員（ALT）との日常会話のやり取りする時間を多く設定する。（学習内容の定着を図る。）